



# 「家族と地域コミュニティの融和的未来」

令和5年10月28日(土) 13:00-16:00



家族の単位が縮小し、家族で支えあい健全な生活を送る機能が弱体化する時代に、地域はどのようにかかわっていくべきでしょうか。

家族と地域の関係は同心円状に捉えて紹介されることもありますが、現在の家族の定義は多様で、かつ、流動的、不確かなものであります。個人は家族、同僚、親戚を経ずに自分のコミュニティをつくり上げることが可能となっています。いわば、「家族」と「地域」が融合もしくは混然一体の新しいフェーズに移行しつつあるのではないのでしょうか。また、地域、特に地方都市も、これまで混ざり合わなかった人材が混ざり合い、かつ、人口の定住は流動的で、「交流人口」「関係人口」といった言葉が誕生するなど、定住者のみが地域住民とも定義できなくなっています。共通点は、両者とも脆弱化し、現代の社会に合わせた持続可能なカタチを模索する必要があるということです。「家族」「地域」どちらの再生も必要であり、家族再生のためには地域の力が、地域再生のためには家族の力が欠かせません。家族を地域で支える事例紹介とともに、持続可能な社会と家族を模索します。

## 徳島文理大学 アカサスホール (2号館2階) ハイブリッド開催 (対面&オンライン)

### 〈第一部〉13時00分～

基調講演：人口減少社会における「家族」と「地域」

徳島大学大学院社会産業理工学研究部社会総合科学域教授 田口 太郎 氏



田口 太郎 (たぐち たろう) 徳島大学大学院 教授

1976年神奈川県生まれ。早稲田大学理工学部建築学科、同大学院修了。博士(工学)。小田原市政政策総合研究所特定研究員、早稲田大学助手、新潟工科大学准教授、徳島大学准教授を経て現職。主な著書に「まちづくりオーラル・ヒストリー」(水曜社 2005)、「中越地震から3800日」(ぎょうせい 2013)、「住み継がれる集落をつくる」(学芸出版社 2017)、「少数で生き抜く地域をつくる」(学芸出版社 2023)、他。自身も徳島県内の過疎集落に移住、地域社会での役を担いながら生活している。

### 〈第二部〉14時00分～

パネルディスカッション：家族と地域コミュニティの融和的未来

コーディネーター 田口 太郎 氏 (徳島大学)

●報告1：「子どもの居場所」が育む「家族」と「地域」

鳴門教育大学大学院幼児教育コース准教授 木村 直子 氏

●報告2：親子を地域で支える～美波町伊座利集落における漁村留学の成果と課題

伊座利の未来を考える推進協議会事務局長 草野 裕作 氏

●報告3：高校生と地域共生～ミニカフェ活動15年の実績

徳島文理大学人間生活学部人間生活学科准教授 寺奥 敦子 氏

主 催：徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部  
一般社団法人日本家政学会 家族関係学部会

問合せ先：徳島文理大学 地域連携センター

088-602-8261 renkei@tks.bunri-u.ac.jp

QRコード・ウェブページから  
お申し込みください。  
申込締切：10月20日(金)  
<https://onl.la/pqttwMv>

